

# わたりせ WALK

in 渡良瀬川

—群馬の水辺を巡る—



わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション



その始まりは1912年、日本一の産出量を誇った足尾銅山からの銅を運ぶために建設された足尾鉄道です。輸送効率が高るのは3を貫く直線ルートだったが、当時の技術でセメントを掘ることのが難しく、3あこを縫つものに流れる川沿いに線路が敷かねえました。

1973年の銅山閉山後は利用が激減して廃線の危機にありますが、「鉄道をやつたら」という沿線住民の乗車運動による存続。1980年、第三セクターのわたりせ渓谷鐵道として再出発しました。

今では「わ鐵」の愛称で、夜は光の世界に駆けめぐらしく走るのが「わたりせ渓谷鐵道」。

桐生駅から終点の間藤駅まで、全長44kmを1時間半かけて走る観光列車です。自慢せなんといつても、車窓に広がる景色。新緑や紅葉に染まる渓谷、滝や観音面、真っ白なみかげ石の河原など、次々とありわれの渓谷美が乗客を魅了します。

その始まりは1912年、日本一の産出量を誇った足尾銅山からの銅を運ぶために建設された足尾鉄道です。輸送効率が高るのは3を貫く直線ルートだったが、当時の技術でセメントを掘ることのが難しく、3あこを縫つものに流れる川沿いに線路が敷かねえました。

1973年の銅山閉山後は利用が激減して廃線の危機にありますが、「鉄道をやつたら」という沿線住民の乗車運動による存続。1980年、第三セクターのわたりせ渓谷鐵道として再出発しました。

今では「わ鐵」の愛称で、夜は光の世界に駆けめぐらしく走るのが「わたりせ渓谷鐵道」。

## 冬の夜に輝く わたりせ渓谷鐵道へー。

この鉄道を、縁のトドマツのせ地元住民のみなさん。ボラーハトイアド駕籠を掃除し、線路沿いを花木で彩るなど鉄道を盛り立てています。

そんな「わ鐵」の冬の風物詩が「わたりせ渓谷鐵道名駅イルミネーション」です。夕暮れから終列車まで沿線の駅舎が色とりどりの光で輝き、駅「」と一緒に趣向を凝らしたイルミネーションが乗客を温かく迎えます。電球を飾りつけたのは、沿線住民の方たち。「寒い季節に訪れる観光客をもてなしたり」と取り組みを始め、今年で2回目となりました。

車窓に映る灯りを眺めながらの旅は、冬の「わ鐵」ならでは。途中の水沼駅では、2025年に駅構内にコロナーアルオープニングした天然温泉「水沼の湯」で一休みも。桐生駅や大間々駅前に車を停めて、駅舎渓谷美を、夜は光の世界に駆けめぐらしく走る「わ鐵」の旅旅に出かけてみませんか。



過去の沢入駅イルミネーション



編集だより

**cafe 蔵八**  
住所…みどり市大間々町大間々 1050  
TEL…0277-46-8910  
営業時間…11:00～17:00(L.O.16:30)  
定休日…火・水曜(祝日をのぞく)

※掲載した店舗・施設は、定休日以外に臨時休業となる場合もあるので、ご了承ください。  
※一部取材先より画像をお借りしています。